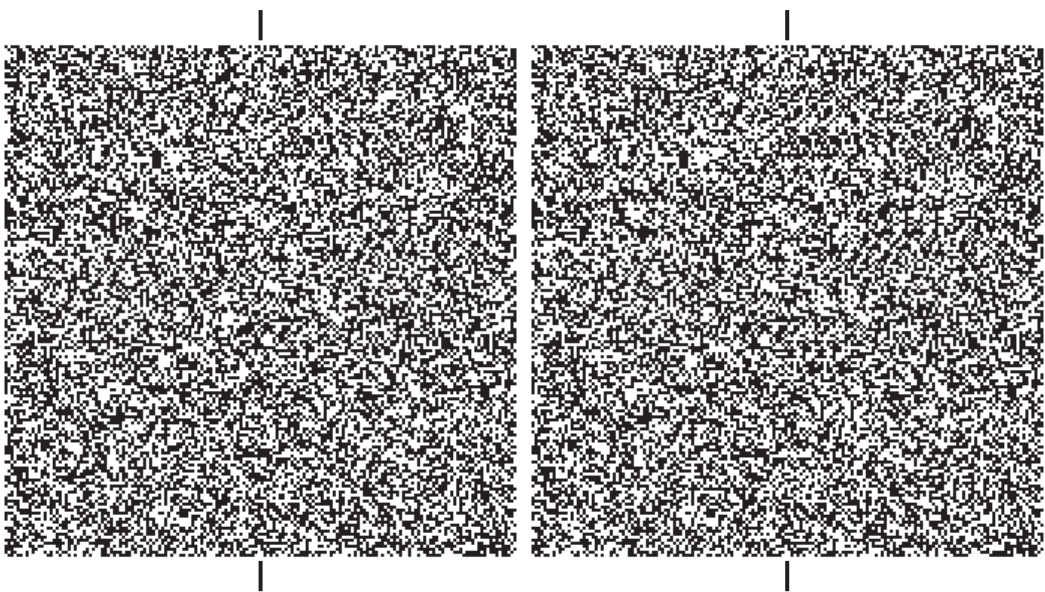


# 人間科学 研究

第35卷 第1号 補遺号

2022年3月



## 人間科学研究投稿規程

- 論文等の著者は早稲田大学人間科学学術院教員（助手・非常勤講師等を含む）、人間総合研究センター招聘研究員、同大学大学院人間科学研究科に在学中の学生（科目等履習生を含む）、同大学人間科学部に在学中の学生、および同大学人間科学学術院学術誌編集委員会（以下「編集委員会」という。）が認めたものとする。但し、人間科学学術院教員（助手・非常勤講師等を含む）との共同研究者は著者に加えることができる。
- 早稲田大学大学院人間科学研究科学生（科目等履習生を含む）、同大学人間科学部学生が早稲田大学人間科学学術院教員を共著者とせず投稿する際は、同学術院教員の推薦書を併せて提出する。
- 論文等の種類は以下のものとする。
  - ① 「原著論文」：理論的・実証的な研究成果で、新規性、独創性、有用性があるもの。
  - ② 「研究ノート」：緊急性の高い研究報告、あるいは萌芽的発想に立つ研究。
  - ③ 「資料」：研究の基礎的材料や情報を提供する資料的価値のあるもの。
  - ④ 「総説」：最近の学術的知見やその成果を総合的に論述したもの。編集委員会が執筆依頼する場合もある。
  - ⑤ 「書評」：編集委員会が書籍ならびに評者を選定・依頼する。
  - ⑥ 「研究室だより」：各研究室の研究・教育内容を紹介し、最近の研究・教育業績等を報告する。毎号各学部の教員に編集委員会が依頼する。
  - ⑦ 「特別寄稿」：編集委員会が執筆者を選定・依頼する。
- 原著論文、研究ノート、資料、総説については、原稿提出期限は、編集委員会が定めた日とし、投稿された論文の査読を行い、編集委員会の議を経て掲載する。その他の書評、研究室だより、特別寄稿等は査読を行わず、編集委員会の議を経て掲載する。
- 他誌に発表された論文等は掲載できない。
- 原著論文、研究ノート、資料は、原則として、早稲田大学が定める研究倫理に関する規程に則ったものとする。特に、早稲田大学の「人を対象とする研究に関する倫理規程」「生物実験安全管理規程」（「生物実験安全管理規程（遺伝子組換え実験）施行細則」「生物実験安全管理規程（動物実験）施行細則」を含む）「病原体等の管理に関する規程」に定められた審査に該当する研究については、当該審査を受け、承認番号を論文記載するものとする。なお、他機関で行った研究に関しても、上記の早稲田大学の研究倫理規程に相当する規程に沿ったものとする。
- 使用言語は日本語または英語とする。
- 原稿は、原著論文、研究ノート、資料、総説、書評等の別を明記し、人間科学研究投稿用テンプレートを用いてMS Word（またはRTF形式）のファイル、およびPDFファイルを提出する。
- 原著論文、特別寄稿、研究ノートおよび資料の刷り上がりは12ページ、邦文は24,000字以内とし、英文は12,000語以内とする（要旨・図表・写真・文献含む）。総説は6ページ、邦文は12,000字以内とし、英文は6,000語以内とする（要旨・図表・写真・文献含む）。書評並びに研究室だよりは2ページ、邦文は4,000字以内とし、英文は2,000語以内とする（図表・写真等含む）。
- 挿入図原稿は、直接印刷できるようなものとする。図表には、それぞれ必ず通し番号とタイトルをつける。図表の挿入箇所は、本文原稿に指示する。なお、他の著者から図表を転載する場合には、著者が著作権者から転載許諾を得た上で、その旨論文に記載すること。
- 原著論文、研究ノート、資料、総説については、人間科学研究投稿用テンプレートを用いて、題名、英文題名、著者名、所属、250語以内の英文要旨（本文が英文の場合は600字以内の邦文要旨）、要旨の下にkey wordsを5つ以内列挙し、それに引き続いて本文を記載することとする。英文については、本文、英文要旨とも投稿前に英文校閲を必ず受けること。
- 博士論文要旨は、刷り上がり2ページとする。修士論文要旨は、刷り上がり1ページとする。シンポジウム要旨等は、刷り上がり1ページとする。
- 句読法、本文中の見出し、引用・参考文献については別に定める人間科学研究書式細則に従うものとする。
- 校正は、著者が三校まで行うものとする。ただし、校正時には、原則として内容に関する訂正を認めない。
- 別刷りは50部まで無料とし、それ以上は本人負担とする。
- 定年等の退職教員のプロフィール、博士論文要旨・修士論文要旨、人総研シンポジウム抄録等は補遺号に掲載する。
- 本誌に掲載された著作権は原則として著者本人に帰属する。また、編集委員会は本誌掲載原稿の第一次刊行権を有し、本誌版下は編集委員会に帰属する。著者による本誌掲載形態での再録・公開は禁止する。著者は本誌掲載原稿の単行本への再録およびWeb上での公開ができる。再録・公開の際には、本誌掲載原稿である旨を明記する。
- 17条の規定に拘わらず、著者は、著作権のうち、以下の各号について、その行使を、あらかじめ許諾によって、編集委員会に委ねるものとする。
  - (1) 掲載論文等を国立情報学研究所の「研究紀要ポータルシステム」に登録および公開する権利
  - (2) 掲載論文等を「早稲田大学リポジトリ」に登録および公開する権利
- 18条の規定に拘わらず、著者は、自らの著作物である掲載論文等について、編集委員会が前条(1)、(2)の権利を行使することに対し許諾を与えないことができる。その場合、著者は、当該論文等が掲載される本誌の刊行以前に、その旨を文書により、編集委員会に申し出るものとする。
- 利益相反については、論文に明記するものとする。

附則 本規程は、2004年11月17日から施行する。

附則 本規程は、2010年1月27日から施行する。

附則 本規程は、2011年10月1日から施行する。

附則 本規程は、2012年1月1日から施行する。

附則 本規程は、2012年12月19日から施行する。

附則 本規程は、2015年12月16日から施行する。

附則 本規程は、2019年1月23日から施行する。

附則 本規程は、2019年11月13日から施行する。

附則 本規程は、2020年9月16日から施行する。

附則 本規程は、2021年5月26日から施行する。

附則 本規程は、2021年6月23日から施行する。

附則 本規程は、2022年1月26日から施行する。

## 編集後記

人間科学研究の第35巻第1号補遺号をお届けします。昨年この時期に編集後記を書いたのですが、そのときと同様、いやそれ以上に新型コロナウイルスの影響が、人を対象とする研究が多く行われる人間科学学術院には重くのしかかっている中、人間科学研究に多くの投稿論文を投稿いただけたのは望外の喜びです。困難なことが多い世の中で、人間科学に何ができるのか、多くの課題を突きつけられているようでもあります。本号に掲載された論文にヒントを見つけていただければと、編集に携わった者として願ってやみません。

2022年1月吉日

(学術誌編集委員会委員長 古山 宣洋)

## 表紙について

縦書きと横書きを組み合わせた題字は、異分野・異文化が「学」を要として結びつき展開する人間科学を象徴している。また、中央部に配置されたランダムドットからなる2つの正方形は、それぞれを両眼で観察すると一つの立体が浮かび上がるステレオグラムになっており、人間科学における学の融合と新しい価値の創造を表す。ここで立体視されるのは、本誌の前身であり、1988年から2004年まで発行された人間総合研究センター機関誌『ヒューマンサイエンス』表紙を飾る、「踊る人」のモチーフである。『ヒューマンサイエンス』に記載された説明によれば、「踊る人」は躍動する人間そのものであると同時に「人間によって記録された人間」であり、言わば「観察」と「記録」という人間による科学的営みそのものを自己言及的に表現していると読み取ることができる。この「踊る人」を、人間科学学術院のスクールカラーであるエメラルドグリーンを使用して裏表紙いっぱいに描き、「踊る人」に重なるコンテンツ——各論考——の飛躍の願いを込めた。

(三嶋 博之)

## 人間科学研究 第35巻 第1号 補遺号 2022年

---

発行日 2022年3月17日

発行人 三嶋 博之

発行所 早稲田大学人間科学学術院

埼玉県所沢市三ヶ島2-579-15

〒359-1192 電話 04-2947-6849

印刷所 社会福祉法人東京コロニー

コロニー東村山印刷所

東京都東村山市秋津町2-22-9

〒189-0001 電話 042-394-1113



www.waseda.jp/fhum

Senior Dean: Hiroyuki MISHIMA
Chief Editor: Nobuhiro FURUYAMA
Editorial Board: Naoto HIGUCHI,
Qun JIN, Masaki KAKEYAMA, Norihiko KAWATE,
Shutaro KOYAMA, Akito MIURA, Mikimasa OMORI,
Ryuju SATOMI, Eriko SUGIMORI, Masayuki YOKOSAWA



Waseda University
Faculty of Human Sciences

CONTENTS

目次

Special Contribution

Kazuhiro Kamikado
"Human Sciences and I" 1

Profile of retired professor

Professor Kimiko Murakami 17
Professor Hisashi Uemura 19
Professor Hiroko Kase 21
Professor Masami Miyazaki 23

Original Papers

Kanae Nakamura, Tomoya Kita, Yuki Aoyama, Eriko sugimori
"The effect of interest in cars on changes in brand preference
after browsing car banner advertisements" 25
Sayaka Sugimoto
"Exploring Linguistic Challenges and Required English Proficiency
in University-Level EMI Classes" 35
Noriko Watanabe, Koji takenaka
"Issues of Workplace Support System Based on
Communication Behaviors of Home-Visiting Staff" 53
Toshihiro Ohkubo, Kenji Izutsu, Shingo Watanabe, Ayako Nishika,
Saki Kinoshita, Yuji Nagai, Motoshi Hiratsuka
"Verification of Monitoring Methods for Sustainable Forest
Resource Utilization" 63
Kei Usami, Yuki Takei, Nozomi Tomita, Ayumi Minamide,
Chika Umezu, Hiroaki Kumano
"Examination of the relationship between Big Five Personality Traits
and the cognitive process of Metacognitive therapy" 73
Hiroe Todoriki
"Investigating the usefulness of neuropsychological tests that detect
minute cognitive functional decline in preclinical Alzheimer's Disease" 83
Mamoru Iwabuchi, Saki Shimamura, Yuji Miyamoto, Hiroshi Fujimoto, Atsushi Ogihara,
Kenji Kurakata, Qun Jin, Hiroko Kase, Kazuo Hashimoto, Takashi Ichinose, Yasuhiro Maeda
"Study on Data Collaboration and Digital Inclusion of Local/Social Services
for People with Disabilities" 97

Research Note

Yasuhiro Kageyama, Hiroko Kase
"A Study on the Factors Affecting the Cooperation between
Medical Social Workers and Discharge Coordination Nurses" 109
Kento Matsukida, Nanako Iwaya, Yan Xiang, Kaho Tanobe,
Minori Machida, LEE Steve K., Jun Tayama
"Effect of Attention Bias Modification on Internet Gaming
Disorder: A Case Study." 119

Seminar Communication

Masayuki Kashiwagi 129
Tomu Otsuki 131

Abstract of Master Theses

79 papers 133

Abstract of Doctor Theses

14 papers 213

Report of the symposium

Hiroko Takenaka 241
Takuya Tsujiuchi, et al. 249

Report of the forum "Current Topics in Human Sciences"

Miho Fuyama 267
Asahi Haijima 269
Ryutaro Furukawa 271
Minako Iwasaki 273

特別寄稿

上鹿渡和宏
「私と人間科学」 1

退職教員プロフィール

村上公子 教授 17
植村尚史 教授 19
加瀬裕子 教授 21
宮崎正己 教授 23

原著論文

中村佳苗, 喜田智也, 青山有希, 杉森絵里子
「自動車への関心の有無がバナー広告閲覧による
ブランド好意度の変化に及ぼす影響」 25
杉本清香
「大学のEMI授業における言語上の困難さと必要とされる
英語運用能力の探索」 35
渡辺紀子, 竹中晃二
「訪問介護員のコミュニケーション行動から考える
職場支援の課題」 53
大久保敏宏, 井筒憲司, 渡辺真吾, 西家綾子, 木下紗綺,
永井祐二, 平塚基志
「持続可能な森林資源の活用に向けた空中写真解析による
モニタリング手法の検証」 63
宇佐美慧, 武井友紀, 富田望, 南出歩美, 梅津千佳,
熊野宏昭
「Big Fiveの各次元とメタ認知療法が介入対象にする
認知プロセスとの関連」 73
等々力博恵
「Preclinical ADにおける微細な認知機能低下を検出する
神経心理学的検査の有用性の検討」 83
巖淵守, 志磨村早紀, 宮本雄司, 藤本浩志, 扇原淳,
倉片憲治, 金群, 加瀬裕子, 橋本和夫, 一之瀬貴, 前田保宏
「地域・福祉サービスのデータ連携に向けた
障害情報の電子化インタフェースに関する検討」 97

研究ノート

影山康博, 加瀬裕子
「医療ソーシャルワーカーと退院支援看護師間の
連携の構成因子に関する一考察」 109
松木田健斗, 岩谷菜々子, 巖翔, 田野邊果穂, 町田規憲,
スティーブ・K・リー, 田山淳
「インターネットゲーム障害有症状者に対する
注意バイアス修正の効果の検討—ケーススタディー」 119

研究室だより

人間環境科学科地域資源論研究室 柏雅之 129
健康福祉科学科行動分析学研究室 大月友 131

修士論文要旨

79 papers 133

博士論文要旨

14 papers 213

人総研シンポジウム抄録

竹中宏子 241
辻内琢也他 249

「人間科学研究交流会」報告

第56回 布山美慕 267
第57回 薮島旭 269
第58回 古川龍太郎 271
第59回 岩崎美奈子 273